

令和4年度第3回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和4年12月19日(月) 15:00～17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、児玉委員、伊藤委員
- 4 検討結果

昨年のウッドショックを受けて大型工場が春先から原木を大量に集荷していたことに加え、夏期においても民有林からの出材量が衰えなかったこと、さらには秋期に入っても製品需要の増加が見られなかったこと等から、管内の製品・原木の流通は著しく停滞している。各製材・合板・集成材工場における原木在庫量は適正量を大幅に超過した状態となっており、大手工場を中心に原木の受入れ制限が続けられている。その上、10月に管内合板工場において火災が発生し同工場の原木入荷が停止したことで、事態はさらに深刻化している。

製品価格は木材需要の低調により値下がり基調にあり、原木価格も夏前までをピークに下落している。こうした中、木材価格の更なる下落を防止するため、国有林では11月に「立木販売における搬出期間の延長措置」といった供給調整対策を行った旨報告がなされた。

今後の先行きについても輸入材の在庫消化が優先される影響で、国産材製品・原木の需要回復にはしばらく時間がかかることが見込まれる。加えて、冬山伐採の時期を迎えることから民有林の素材供給量の増加が見込まれており、原木の供給過剰に拍車がかかることも想定される。

一方で、製紙用・燃料用原木には継続して安定した引き合いが見込まれており、国有林からの安定的な出材が期待されている。また、今年度国有林から出材した役物・造作用の高品質原木には引き続き供給を求める声も聞かれる。

以上のことから、国有林に対しては、「立木販売については引き続き供給調整を行いつつ、素材についても、管内の市況動向を注視しつつ、木材産業の収益性の確保と山元の伐採・再造林の意欲の維持を両立させることを目指して、量的・价格的な調整を必要に応じて適切に行っていくよう求める。」と報告する。

5 主な意見

- 例年9月以降は出材量が減少するが、今年は素材生産が順調に推移しており、各製材・合板・集成材工場では原木の買い意欲が弱く、荷余り状態が続いている。一部の事業者では夏以降、造林事業等により仕事量を調整してきた。12月からは国有林の請負作業を終えた事業者が順次民有林における素材生産作業に移行していくことが見込まれており、年明けからスギ民有林材が大量に出回ると予想される。
- スギ集成材は WW 等の輸入材の在庫消化が優先されている関係で需要が減少傾向にあり、荷動きの回復には時間がかかると予想している。カラマツ集成材は、ヒノキ KD 土台や RW 等が低廉な価格で流通しているため価格競争力を失い、需要が減少傾向にある。集成材の製品価格は9月以降大幅に引き下げ。それに伴い原木価格も値下がりしている。
- 7月以降、製材・合板・集成材工場において在庫が漸増しており、受入れ制限が次第に増えてきている。例年、冬季は住宅着工戸数が伸びないため、製品在庫の解消には時間を要するものと考えられる。一方、バイオマス向けの針葉樹燃料材については 32 円材の需要が高まり引き合いが強くなっているほか、製紙用・薪用の広葉樹材についても針葉樹の生産割合が増えた関係で不足感が強くなっている。
- 秋需の低迷が続き製品の荷動きは全般的に低調である。製品入荷が順調である反面、販売についてはウッドショック時に高値で仕入れた在庫の解消に苦慮している様子が見受けられる。外材製品についても住宅需要の低迷により資材の引き合いが少なく在庫過剰感がある。一方で製紙工場においては、製紙用針葉樹原木の入荷に不足感が見られる状況となっている。
- 製品については秋需要の増加も見られず、受注の動きが鈍化している状況にあり、出荷量も減少してきている。東北圏外の製品市場でも動きが鈍く、当用買いが中心となっている状況である。米国向け製品輸出も製品在庫過多等により低調だが、コンテナ運賃が下がってきていることから今後少しずつ改善されていく見通しも聞かれる。
- 合板製品については、住宅着工数の停滞等から荷動きが極端に鈍化しており、製品在庫が増加している。中国産針葉樹合板の JAS 執行一時停止による代替需要も限定的。流通業者は手持ち製品在庫の消化を優先しており、今後の製品需給動向は不透明となっている。合板用原木についても伐採が順調な一方で工場における原木在庫が過多のため、引き合いは軟調である。
- 今四半期における原木の入荷量・出荷量・在庫量は、前四半期に比べいずれも数%の減少。需要動向に応じて、供給側にも生産調整等の対応をとっているところが見られる。今後民有林での素材生産が本格化すると、入荷量が増えて材がだぶつくことが予想される。国有林からの高品質ブランド材の出材には感謝している。県内の素材生産業者から、高齢級の良材を狙って生産したいと相談もあった。
- 現在の木材需給のアンバランスは、需要と供給のタイムラグに起因するところも多いと考える。また、工場の大規模化による製品生産能力の向上、及び山側での生産性向上が進んでいることが、量的な調整のしづらさに寄与している側面もあると思われる。最近の傾向として、燃料用材の需要が膨らむ一方で合板材等の需要が減退しており、カスケード利用の難しさが顕在化してきていると感じる。